

1. 活動報告

起業化経営論の実践活動がはじまりました。

今年度の起業化経営論の実践活動は昨年に続き「酒粕」をテーマに、新しい“モノ”や“コト”を創出していきます。本活動は大学院工学研究科院生を対象にアイデア出しや試作品づくりを通した実践的な経営学の教育を目的に取り組んでいます。講師陣には吉田酒造有限会社 代表取締役 吉田由香里 氏、本学の 竹本拓治 教授、浅井華子 助教、川上祥代 特命助教に加え、ブランディング専門家の光成章 氏*を新たに迎え活動しています。

*光成章氏はこれまでに日系や外資の市場調査会社で数々の依頼調査に従事してこられ、2018 年からはジャートム株式会社を設立し代表取締役をされています。

2020 年 6 月 12 日（金）に行なわれたオンライン講義では、初めに吉田社長から「吉田酒造の日本酒づくりや酒粕の現状、経営理論」について、そして光成氏からは「世界的なブランドのイノベーションやマーケティング事例を基にしたアイデア作り」についてお話いただきました。次に竹本教授から「前期期間中にアイデアを創出し、事前確認と各先生方のコメントを踏まえて中間発表までにアイデアを成熟させること。創作したアイデアは中間発表後に最終選考を行い、アイデアチャンピオンを決定すること。アイデアチャンピオンに選ばれたチームは後期期間中に試作品作製に取り組むこと。」が今後の実践活動計画である旨、説明がありました。

学生らは、吉田社長に「酒粕の販売量」や「既存商品づくりに必要な酒粕量」、「廃棄量」等について質問をしていました。

2020 年 7 月 17 日（金）の講義では、9つのチームが事前確認で受けたコメントを反映させたアイデアの中間発表が行なわれました。各班は最終選考までに実現性や特異性、成熟性、積極性の各観点にアイデアが耐えうるものかどうかを検討するように、指示が出されました。

2. 活動報告

酒粕エキス入りの消毒液の官能評価に向けたサンプルづくりを行いました。

2020 年 6 月 9 日（火）に、昨年の起業化経営論の実践活動において取り組んだ「酒粕エキス入りの消毒液」のサンプルづくりを行いました。

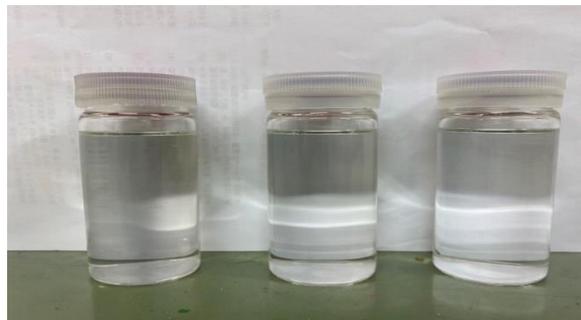
サンプルは酒粕エキスが 0%、4%、8%の 3種類を作製しました。これらサンプルはエタノール濃度が 77%~81%になるように調整しました。

今後、新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえた上で本学学生が官能評価を行う予定です。

本活動は、本学大学院の石川優里奈さんと大山匠さんの二人が本学教職員や県内企業からアドバイスをいただきつつ、昨年より継続して活動を行っています。



写真①：酒粕エキス入り消毒液の調合の様子



写真②：濃度別の酒粕エキス入り消毒液（左から順に酒粕エキスが 0%、4%、8%の液）

3. 活動報告

衛星運用の実習を行いました。

2020 年 7 月 9 日（木）に、人工衛星設計基礎論 2020 の第九回目「衛星運用の実習」の授業を本学

文京キャンパスにて行いました。

本講義は、本学産学官連携本部の青柳賢英特命准教授が担当し、県内企業の技術者らが受講しました。

実習では模擬人工衛星と通信を行ない、データ確認の手順やカメラの撮影操作等を行いました。

参加者らは、「人工衛星の運用作業を体験できて良かった」などの感想がありました。

4. お知らせ

ものづくりを支える分析技術講座を開催します。

2020年8月20日(木)、25日(火)、各回12時～13時30分まで、イノベーション共創教育プログラム「ものづくりを支える分析技術講座2」『DARTおよびMALDIの活用』をテーマに、オンラインで講習会を開催します。なお、定員は先着200名程度、参加費は無料です。

講習会は、日本電子株式会社 佐藤貴弥氏と田村淳氏を講師に迎え8月20日は「アンビエントイオン化法 DART の原理と最新のアプリケーション」について、8月25日は「MALDI法の基礎と、超高分解能MALDI-TOFMSとKMD法を用いたポリマーの解析等の最新応用例の紹介」についての講座を予定しています。

講座に参加を希望される方は、ふくい産学官共同研究拠点までご連絡ください。

e-mail : kyoten@hisac.u-fukui.ac.jp

5. お知らせ

ふくい産学官共同研究拠点では、新たな分析機器を導入しました。

昨年度末に、ふくい産学官共同拠点では、「フィルメトリクス社の膜厚測定システム F20」と、マイクロサポート社のマイクロマンピュレーター用「電極ホルダー」を導入いたしました。

膜厚測定システムF20は、光干渉法を基に、透明もしくは半透明な膜の膜厚や屈折率、消衰係数を僅か数秒で簡単に計測することが可能な機器です。例えば、半導体の酸化膜やレジスト膜、ガラスへの反射防止膜など様々なサンプルの膜厚測定を行うことができます。

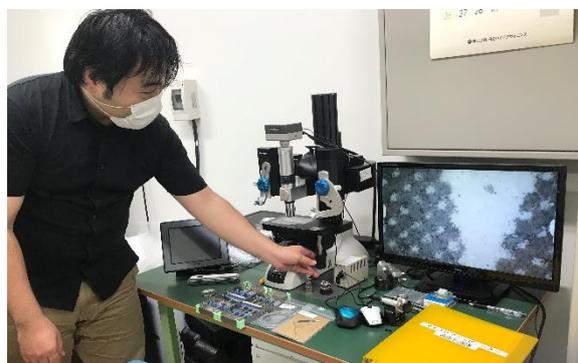
電極ホルダーは、主にサンプル採集ツールとして使ってきたマイクロマンピュレーターに電極を取り付け、オシロスコープなどの電気特性を測る装置を組み合わせることで、これまで難しかった微小部位や粒子1粒の電気特性の分析が可能になります。マイクロマンピュレーターには電極の他、ハサミやピンセット、ナイフ、プローブなどの先端工具があります。



写真：フィルメトリクスF20本体



写真：各種先端工具（左側がナイフやプローブ、右側が電極ホルダー）



写真：マイクロマンピュレーターのオペレーションの様子

(2020年7月27日付)